
暗殺計画

藤城一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗殺計画

【Zマーク】

Z6644C

【作者名】

藤城一

【あらすじ】

男がいた。絵に描いたような不幸な男だ。自分の全てをセセナード、今、銃を女王に向ける。

(前書き)

初心者です。
よろしくおねがいします。

某ビルの八階、倉庫のようなところ。男は目を閉じて壁にもたれかかっていた。

突然、拍手が聞こえてきた。男は静かに目を開け、そばに置いているセミオートのスナイパーライフルを手にとつて立ち上がり、窓際に立つた。

ビルのそばの平和記念公園に黒い車が入ってきた。公園内には真っ白な舞台があり、今日皇后がここで演説をすることになつてゐる。男の任務は皇后を暗殺すること。

彼の家は金持ちだった。だが、不景気の上、不正が発覚したせいで父の会社が倒産し、父は自殺。破産したにもかかわらず借金取りは毎日取り立てにやつてくる。夜逃げも失敗。幸せを取り戻すためには裏の社会で稼ぐしか方法はない。そう考えた男は暗殺を引き受ける会社に入り、少しの間教習を受けてこの初任務にやつとこぎつくことができた。

男は女王がどんな状況の国の、どんな人なのかまったく知らない。ただ指定されたこの場所に来て、殺すだけでたんまりと金が手に入る。今ある借金の半分以上も、だ。こんなにおいしい話はない。やはり裏の世界だ。

黒い車は公園を進んでいき、舞台の前まで来ると停まった。そして、ドアが開いて出てきたのは、

おばあちゃん

男は一瞬たじろいだ。きれいな白髪、輝いている目、笑みのこぼれていの口。破産する前に死んだおばあちゃんにそつくりだ。

確認のために彼女の跡に車から出てくる人を目で追つたが、用心棒以外他には出てこなかつた。やはり、あの老婦人が皇后なのだ。

殺す？

おばあちゃんは男をとてもかわいがってくれた。一人しか孫がない

ないからだろうが、彼にとつておばあちゃんは両親よりも特別な存在にあつた。老人の一人暮らしは危ないと一緒に家に住んでいて、両親が外出中のときはおばあちゃんはいつもどこか楽しいといひく連れて行つてくれた。

そして、いつも笑つていてくれた。

皇后が演説し始めた。計画では、この演説中に殺すことになつてゐる。慌てて男は窓の万力にライフルを固定した。そして照準をあわせる。

でも、それ以上先には進めない。後は引き金を引くだけ。たいした作業じゃない。子供にだつて出来る。それに、皇后はおばあちゃんじやない。

でも、それ以上先には進めない。なぜだろう。人を殺す、と決意したあの日の痛みよりも強い痛みが心に染みる。

それでも、引き金を引かなければ母が苦しむ。今まで育ててくれた母の苦しむ姿が浮かんできた。また痛む。

演説が終わつた。広げていた原稿をたたみ、拍手に包まれている皇后は微笑んでいた。もう時間がない。強く目をつむり、男は顔を伏せた。

銃声が響く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6644c/>

暗殺計画

2010年11月21日03時01分発行